

世界を震撼すべき一



# 對馬海峽地下鐵道

杉山茂丸

英佛海峽地下鐵道

國家的事業、否世界的の事業として、先年來余は同志と共に諸所の海底鐵道を計畫して居る。此の事業たる、發展性ある我が帝國に取つて、最も緊要なる焦眉の事業である。蓋し、帝國は朝鮮及び租借地を除いては、海中に散在せる列島國である。即ち

大陸からは隔絶せられて居る。然るに文明的の生活をする國家が、斯く隔離せる島國たることは、非常に都合が悪い。現に歐洲大戰に際して、英國が島國たりし爲めに感じた苦痛は如何ばかりであつたらう。されば、今や英國も因襲と利害關係との紛糾を排して英佛間に海底鐵道の敷設を企て、居

る。我が日本も、海底を通じて島嶼間、若くは大陸との間を連絡することは經濟上に軍事上、其他凡ての方面から見ても極めて切要なことである。就中、余が、對馬海峽の底を潜つて、朝鮮に達する隧道の計劃を最も急務とする所以も茲に在る。斯くして始めて我國は島國の位置から大陸の一部となるのである。地理上表面の海水の隔絶は何等の支障をも來さず、一路直ちに東京より支那朝鮮へ、更には露獨佛英の諸國に連ることとなるのである。

## 津輕海峽測量

就ては數年來、余等が關門海峽の海底連絡鐵道の企劃をなすや、同時に他の諸海峽

の下調査をもなした。而してその重なるものは、津輕海峽及び朝鮮海峽であつた。此の兩者を比較すれば、距離の點では津輕海峽が遙に短い、王事の難易は同日の談ではない。何となれば、朝鮮海峽は地質學者が、太古陸地で接續して居たと唱へる程に、水底概ね淺く、且つ中間に諸島が群在して居るので、島から島へ通じて連絡をするには左したる困難を感じない。然るに津輕海峽の方は水底深くして且つ中間に島嶼が乏しい。勿論、水底如何に深くとも、鑿道の工事を施すに至難を感じないが、何よりも不便なのは、隧道の諸所に空氣抜きのないことである。即ち鑿道は新式の壓搾空氣應

對馬海峽地下鐵道



關門海峽鐵道に就て

然らばこれを民間の事業とするか、國家の事業とするかと言ふに、經費を節約し、竣工を速かならしめんには、民間事業たるに限るけれど、帝國の政府としては、多分斯る世界的大事業を民間には委ねないであらう。關門海峽すら、種々の顧慮からして余等が再三提出せる案を斥けて、政府で計劃することとなつた位である。しかも、關門海峽の如き、余等の遠成策に依れば、最も急いで三ヶ年間に完成し得る所を、政府は七ヶ年を要するといふ。これには海外へ技師を派遣して視察せしめたりなど、準備に手間取れるからである。何れにせよ、

朝鮮海峽の如き、一日も忽にすべからざる場所では、出來得る限り速に着手し、且つ工程を急がなくてはならぬ。況んや三十年の長日月を要せずんば成功し難きに於てをやである。然るに、事實は、余等一部の有志を除いては、未だこれを誇大妄想狂の言の如く思ひ、當局者も實業家も、眞面目に聽いて呉れないのは遺憾至極である。

て置いたならば、假に二十年を閲し、數億圓を費して開鑿したからとて、その犠牲は十年ならずして償はるべき事、少しく數理を諳んずる人の知る所であらう。今や朝鮮滿洲は勿論、西比利亞に蒙古に、帝國の權威を發揚すべき地は、愈々益々此の海峽の彼方に擴つて居る。まして二路歐洲の野に

尙ほ此の隧道開通の曉、我が帝國並に世界に對して如何なる利益を興ふべきかは言ふ迄もないが、殊に帝國がこれによつて大陸の一部となり、軍事上、交通上、貿易上に及ぼす影響は甚大なるものであらう。若しその設備を完全にして、複々線にでもし

一致一日も早くこれを完成したい。

通するに至つては、將來、極東の中心たるべき帝國が此の一隧道に依つて享受し得べき利益の絶大は思ひ半ばに過ぐるものがある。併しこれは破天荒の大事業である。スエズ、パナマの運河も、英佛海峽隧道も比較にならぬ程の大事業である。國民は協力

全 國 名 物 投 書  
(吉 柳 一 宮 都 宇)

宇都宮名物、古い處は釣天井事件であるが、現代に於ける名物は僅かに七色唐辛子賣りの藤田寅吉翁と安並料理店の「鰻の蒲焼」と栃木縣會が「蠟燭縣會」だと言ふ三つ位のものである。寅吉翁は年齡既に六十年位、春丈タツタ三尺の小男で汚ない翁、然し年中柄に似合は無いドンやうな大群を振り立て、唐辛子を賣り廻り、偶にはドヨツク

コートと云ひたい程のぼろ洋服にシルクハットを冠ぶり廣告屋に傭はれたりする。死ぬと當地の初野病院に於て解剖する約束になつてゐる。蠟燭縣會とは三十日の會期中二十日以上も遊んで送り五六日間に蠟燭をつけて議事を議議するから、縣人が冷かした分に命名したもの、今年のも矢張り同様だつた。(投票歡迎)